

「教育長通信」 第180号

令和7年12月19日

「市長に提言」を参観して

昨日は、第五中学校で「市長への提言」という3年生による市民科の授業を参観しました。3年生はこの日の発表に向けて、夏休みも含め時間をかけて準備を重ねてきました。文字通り、中学生の日頃の問題意識から、探究課題を設定し、武蔵野市をよりよい街にするために、何ができるかを考え、市政に対する提言として発信することを目的としています。

当日は3年生の24グループと槻の木学級がポスターセッション形式で提言の発表を行いました。久山校長先生の案内の下、私も小美濃市長と一緒にすべてのブースの発表を聞かせていただきました。全体を通じて感じたことは、中学生の問題意識の確かさとプレゼン力の高さでした。今月は、市議会本会議の一般質問も行われましたが、その際の議員からの質問と同じような質問内容もあり、中学生の武蔵野市政に対する鋭い視点や考察に大いに触発させられました。

当日の発表の中から、いくつかのテーマと内容説明から抜粋して紹介します。

[テーマ①] 二次救急病院建設計画

[内容説明] ⇒一日中いつでも救急患者を受け入れるため、新しく二次救急病院をつくることが目標です。早急な対応ができるように万全な体制をつくり、地域の皆様の安心と安全を守ります！

[テーマ②] 学びと遊びを両立させたIT施設

[内容説明] ⇒遊びの延長としてプログラミングに関われる施設があれば、多くの子どもたちが興味をもたなかった分野に挑戦でき、学校と同じような第二の家になると考えました。

[テーマ③] 武蔵野市にヒカリを～安心できる街づくり～

[内容説明] ⇒武蔵野市の街灯は法律上の基準値をクリアしています。ですが、暗くて怖いなど思った道、ありませんか？そんな武蔵野市の「明るさ」の現状や課題に迫ります！！

ポスターセッションの終了後は、全校生徒と参観された保護者の方たちが体育館に集まり、小美濃市長を交えたタウンミーティングが行われました。代表生徒による市長への質問や意見は市政や教育行政の課題の本質を捉えた鋭いものが多く、小美濃市長も一つ一つの質問に対して丁寧に答弁されていました。1,2年生にとっても貴重な学びの場になったと思います。

こうした取組を通じて、小中学生の地域参画への意欲や主権者としての意識が高まり、将来の武蔵野市を担う若者の地域貢献や社会貢献にもつながっていくものと改めて実感しました。

市内の多くの学校で、こうした取組が充実することを願っています。第五中3年生の皆さん、貴重な提言を発表していただき、ありがとうございました！